



医療法人近森会

発行 ● 2007年1月25日

www.chikamori.com  
www.近森病院.com

〒780-8522 高知市大川筋一丁目1-16 tel.088-822-5231 fax.088-872-3059 発行者●近森正幸/事務局●川添昇

# びるっぱ 2

Vol.247

## CT新時代 ■ 心臓5秒、全身10秒の撮影

放射線科・画像診断部  
部長 森田 賢



昨年12月より当院で、新型CTであるGE社製「Light Speed VCT」(以下「64列CT」、体軸方向に1列であった検出器が64列になりました!)が稼動を開始しましたので紹介します。

64列CTは従来のCTに比べ、極めて短時間に広い範囲の撮影が可能であり、心臓を5秒、全身なら約10秒で撮影ができるようになりました。このため、患者さんにとってはCT検査時の息止め時間の短縮、造影剤使用量の低減、検査時間の短縮が可能となり、大幅な負担の軽減が得られます。

従来、心臓の精密検査には血管内に

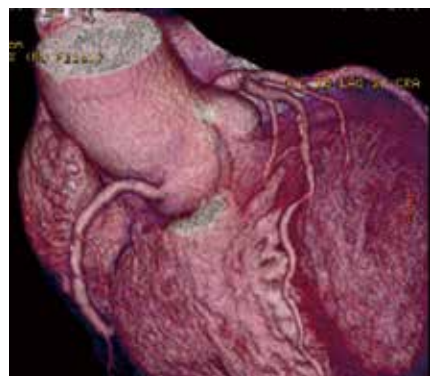
細い管を入れて行なう血管造影(心臓カテーテル)検査が避けられず、躊躇される患者さんもおられ、負担の少ない検査の出現が待たれていましたが、この64列CTの登場により外来で容易に施行できるようになり、心臓検査のあり方が変わろうとしています。

この他にも脳動脈瘤や胸腹部大動脈瘤、閉塞性動脈硬化症等の心臓以外の血管性病変も短時間で極めて良好な画像が得られ、診断のための血管造影は不必要となって来ています。

言うまでもなく、従来の当院CTで行なっていたCT検査は全て64列CT

で施行でき、より高速に、より高画質な画像を得ることが可能となりました。患者さんにとってたいへん有益な64列CTの今後にご期待ください。

▼正常な心臓はこんな風に見えます



▼腹部動脈瘤。病変の全体像把握が容易



▼閉塞性動脈硬化症。閉塞部位とそれを補う血液の流れが明瞭に確認できる



### 公安委員に任命されて



近森 正幸

警察とのお付き合いは20数年前のころからで、病院に近いこともあり、高知署の留置場での検診や治療、そして死体検案をずっと行ってきた。そんなとき、第一線の警察官が黙々と死体を片付けているのを見て、社会の底辺を支えているんだなあという思いがした。

当時の近森病院といえば、野戦病院のような救急病院で、24時間365日働いていたが、近森もまた医療の底辺を支えており、医師の立場で警察に協力しなければと思った。

学校でのいじめや家庭内暴力、犯

罪の凶悪化など、現在の日本の社会はさまざまな問題を抱えている。家庭や学校にはあまり介入してこなかった警察だが、しだいに介入せざるを得なくなっている。こうした状況下で、警察をはじめ教育者や医療人が、崩壊しつつある地域社会を支えていくという気概を持たなければならないと思う。

高知県では三人の公安委員による公安委員会が、警察を監督する立場にある。これまでは名誉職の色合いが強かったが、ストーカーの相談を受け付けなかった事件以来、実質的な公安委員の役割を果たすようになってきた。

父も昭和25年に35歳の若さで公安委員を仰せつかっていて親子二代で務めることが出来ることに感慨深い思いがする。これからはお酒もほどほどにして、飲み会も一次会で帰るなど、自分を律さなければならぬ。この役の重要さを感じ、いま身の引き締まる思いがしている。

理事長・ちかもり まさゆき

# 電子カルテ導入、その後

診療支援部長 寺田 文彦



昨年10月より本格導入されたCMIS 6.2次電子カルテシステムは3カ月を経過しました。

大きなトラブルもなく、その間生理検査システム・循環器動画システムなど大規模な部門システムの構築が行われ、ネットワークが院内全域に張り巡らされ、トータルマネジメントが必要となっています。

導入のメリットは紙カルテよりも診療情報の共有がより強固となり、チーム医療を行う上で記事内容が豊富に記載され、各種画像とあわせて患者さんやご家族への説明が分かりやすくなったこと、また、フィルムレス対応したことであわせて画像診断が迅速になったなどが挙げられます。

反面、デメリットとして導入初期の操作での不慣れや紙カルテからの移行による外来患者さんへの待ち時間の延長などがありますが、今後データの通覧性やレスポンスタイムも順次改善・改良される予定です。

2008年に導入予定の「高齢者医療制度におけるかかりつけ医との連携強化」や「DPCデータの本格的なベンチマーキング」、「新しい診療報酬制度確立に必要なコストの原価管理」など、診療現場や管理部門が必要とするシステム改良が常に求められます。

幸い当院の電子カルテワーキングでは各職種より多くの改善要望が寄せられておりメーカー各社と打ち合わせの毎日が続いております。

近森病院の急性期治療の他、近森リハビリテーション病院の回復期リハビリ、第二分院の心療センター機能、老健施設を含む在宅総合ケアセンターとの近森会グループのデータ一元管理を重視したシステムとなり、運営管理に大きな力を発揮してくれると期待されます。

5年後のシステム入れ替えを見据えた「患者様の診療情報を蓄積・分析・後利用できる」「診療現場に必要な効率性を追求し続ける」電子カルテで

あるために改善し続ける必要があります。



今後ともご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

## 第19回 クリニカルパス大会 急性冠症候群(ACS)のパス

2006年12月9日(土)に、高知城ホールで 循環器科科長 關 秀一

今回は、急性心筋梗塞のパスとして2004年12月25日作成され、現在は不安定狭心症を含めて運用されている『急性冠症候群(ACS)のパス』をテーマに、窪川渉一医師の司会で進められました。パスの問題点を、医師・看護師(ER・CCU・病棟)・理学療法士・生理検査室の立場から、さらにベンチマークも加え、討論形式で発言してもらいました。

会場の医師・コメディカルをも巻き込んだ活発な討論に拡がり、大いに盛り上がりました。当院のパスではCPKの最高値で重症度を評価(1500未満を1週間コース・1500～4000未満を2週間コース・4000～6500未満を3週間コース)していますが、心リハ進行の遅れに伴うバリエーション発生率が高く、今後は患者さんの年齢や入院前の活動  
※次頁へ

## 聴診器



高知FD山伸選手▲ ▲期待の野球少年(憲孝) ▲安田師長

昨年は、WBC優勝、熱戦の甲子園、新庄の現役最後の日本シリーズと野球ファンの私にとって楽しい年でした。

私が野球を好きになったきっかけは、父が少年時代に野球をしていたこともあり、小さいころから、テレビをつければプロ野球中継の番組ばかり。そんなことで、自然と野球を見るようになり、野球のルールも覚え、球場まで足を運び見に行くようになりました。結婚してからも、旦那さんも野球好きで、義理の兄は野球部監督(「選抜

## 息子に託す夢

で優勝経験あり!)をしており、親戚が集まれば野球の話題になります。

プロ野球は、もちろん阪神ファンです。昨年は、優勝を逃し悔しい思いをしました。ぜひ、今年は優勝をして欲しいです。

私の父は、男の子が生まれると絶対野球をさせるといっていたそうですが、あいにく女ばかりの姉妹でした。私に待望の男の子ができたことで、自分の子どもにできなかった夢を、孫でと、父なりに思っているようです。

そこで、時間があるときは、高知ファイティング・ドッグスの試合の観戦に一緒にいたり、なんとか野球に引きこもうと親子共々努力をしています。(新館5階西病棟

看護師長 安田幸美)

## ※前頁より

性を考慮した新しい適応基準に改定して、より使い易いパスにしたいと思っております。

後半は、貼付剤の正確な使用方法について小川香さん(薬剤師)から、ACS患者さんの出来高とDPCの比較について村戸佳奈子さん(医事課)から、トピックスとして、西森美千代さん(画像診断部・放射線技師)に、『ちょっと知ってほしい放射線被爆について』と題して、放射線被爆軽減の工夫について話していただきました。

## 医療安全シリーズ②

医療安全担当看護師長

青木 千利

## 不安と危険

先月ご披露した研修珍道中は、名古屋を離陸するまで続いた。岐阜駅で小牧空港までの連絡バス停が見つからない。案内板を見ると、乗り場の番号が②から始まっており、そこには空港行きなど全く無いではないか。何故に①番が無い?ビルの中の某デパートに入り尋ねると、階段を上がって暫く歩くと①番があり、そこが空港行きバス停とのこと。案内板に載らず、色も書体も異なる角のバス停。8人も乗れば満席になるワゴン車から、料金300円を両手の平に受け取るためにドライバーが降りて来られたのは、定刻を少し回ってから。料金は500円のはずだし…。大型バスを想像していた我々は、思わず顔を見合わせたが時間の余裕など無い。

しかし、ここが土佐ハチキンの気合の見せどころ。見慣れぬ風景は不安感をおおるのが平均的であろうが、5名の仲間(1名は別の帰路)の行動となると大きな気分。息苦しい程に狭い車内も、妙に一体感を強めたのは確かである。

けれども、この情景が院内だとしたらどうだろうか?インフォメーションの良し悪しが安心と不安、危険と安全を左右させると言っても過言ではないように思う。皆さまも周囲を見渡し、不親切なご案内になっていないか注意の眼で点検してみてください。

左から、近森幹子(4西看護師長)、小川香(薬局薬剤師)、浜田聡美(4東看護師)、浜口富代(4西主任看護師)、山崎明美(放射科外来主任)、吉永富美(4東看護師長)、関秀一(循環器内科科長)、梅原加奈子(検査室検査技師)、今井龍一郎(循環器内科医師)、田中健一朗(リハビリ理学療法士)、山本京子(CCU看護師)、村戸佳奈子(医事課)、窪川渉一(循環器内科科長)



## 院外エッセイ

熟女はフラ  
で…

ルアナと楽しい仲間たち 主宰

ルアナ 中川(本名 中川豊)



あるフラの受講生がレッスンを終えて帰り際に言った。「先生すごい!これほどド年寄りを楽しませて…」。満面に汗して笑顔で踊るフラは、確かに楽しいものがあるようだ。

南国情緒溢れるハワイアン音楽が、ゆったり流れる時間の中に身体を浸すかのようなイメージと相まって、ウクレレやスティールギターの奏でる『君知るや南の国』的な夢気分させてくれるところがいいのかも知れない。私の教室に来てくださっている土佐の熟女たちは、平均年齢60歳半ばであろうか。なかなか熱心で欠席はほとんどしないし、レッスン開始の30分前にはもう踊っているのが通常の光景である。

フラの中には少し、あるいは相当難しい古典フラと呼ばれるものがある。力強く勇壮、そして神がかり的で…、迷信や悪霊の渦巻く摩訶不思議な宗教的なうた(「オリ」と呼ぶ)と、その表現によるフラである。ハワイ人の踊っているそれを観ると、何かしら物語を想像し究明したくなる衝動に駆られてしまう。

ルアナはハワイ語で楽しむの意味。1938年生まれ。38年勤めた私立高校を定年3年前に退職しフラの世界へ。オアフ島のモミ・クルーズ氏に師事して10年余。毎年研修に出かけハワイ文化としてのフラを学んでいる。県内は室戸から中村までたくさんの教室があり、ルアナポリシーとして「みんなで集いフラを楽しむ」「病院や施設へボランティアとして積極的に参加しよう」の二本柱を立てている。よさこいにも100余名出場し、審査員特別賞(05年)や米子市長賞(06年)など受賞し、熟女たちは気炎をあげた。

古代ハワイにも冒険的な神話伝説が民衆の中に生きており、文字は無かったけれどそれらは「オリ」によって子々孫々へと伝承されてきた。

時として傲慢になりがちな人間への教訓や戒律を求めているもの、人間の愛情の切なさや美しさ、また人間の力ではどうすることもできない大自然への畏敬の念を表わしたものなどがある。

ハワイ島はいまでもキラウエア火山が赤い溶岩を流し自然を破壊し人家を襲うことがあるが、当然のようにここには火の女神が登場する。ペレという女神は時には美しい娘に化身して土地の王子と恋をし、ある時は老婆になり人の心を試してみたりしているが、気性は荒く激情型で気に入らない時は鬼女となり火炎とともに神でも人でも呑み込んでハワイ諸島に君臨している。

ハワイ島のもう一つの山マウナケア(4200m)は冬になると雪が積もりスキーが出来るが、その山には有名な国立天文台ハワイ観測所(通称・すばる天文台)が建っている。そこには美しい雪の女神ポリアフが棲んでいて、火の神ペレとポリアフは終わりのないバトルを繰り返す神話を面白くさせている。

土佐の熟女たちが神話をフラで楽しむには34年のキャリアが要るだろうか。こんな風に興味は尽きそうもない。

第29回 管理部長塾

# 外から見ていた近森会

2006年12月18日、近森リハビリテーション病院7階会議室で



▲最初に挨拶に立つ川添昇管理部長

▼森山博行事務長



「近森会にお世話になり始めて日の浅い私が、スタッフの皆さんの前で雑感めいた話をするのはおこがましいと思いましたが、川添管理部長から、勤め始めて日が浅いからこそ見えることがあるだろう！と、お話をするように強い勧めがありまして…」

こんな感じで始まった森山事務長のお話は、民間病院の経営に長く関わってこられた医療人独特のクールでしかも情に厚いレンズを通して、近森会やその周辺を「近森の内と外」からじつと観察する、という趣があった。

管理部のスタッフを主な対象として、近森リハビリテーション病院の森山博行事務長が今後気になる医療界の動向や、近森会やスタッフが「外から見たらどんな風に見えるか」など、これまでの豊富な体験をもとにした第29回目の開催となる管理部長塾の講師を、ざっくばらんな感じで務められた。若手スタッフには耳の痛いような話から、深く納得させられる経験談まで、1時間は瞬間に過ぎてしまった。

高知県人は「進取の気性」の持ち主が多いという話はよく聞かすが、近森会はそのような意味では典型的な高知県人で、新しいこと、他では取り組みが始められていないようなことでも好ましいとなればどんどん実行に移していくことが多いのではないだろうか。

こんな近森会の姿勢を外から見れば、否定的に映ることがママあるのは仕方が無いかも知れないとか、これに類するたとえ話が森山事務長の所感を交えていくつか披露された。

近森会スタッフは概して明るくて楽しげで前向きで、患者さんにもご家族にも好印象を与えているだろうが、ときに私語が過ぎるとか、自分たちの仕事の段取りよりもホントの意味で患者

さん中心に仕事が運んでいるだろうか…とか、「はっきり言うのも気を遣うのですよ！」などと、会場の笑いを取りながら、スパイスの利いた話が続けられた。

最後は、「近森会の今後は、(経営陣はいうまでもなく)、ここにいらっしゃる皆さん一人一人が担っています。

患者さんからすれば近森会の医療に対する期待が大きいと、医療以外の部分に対しても期待します。患者さんに直接接する担当者はもちろんのこと、そうではない方も、言葉、立ち居振舞いには気をつけましょう。もし自分が患者さんだったらどうでしょう。業者さん、外部関係者の方へも同様です！」と、力強いエールで締めくくられた。

## 職員旅行

### イタリアフィレンツェへ

2006

Vol.4

▼「30歳の誕生日にフィレンツェのドゥオモ(大聖堂)で待ち合わせる」と交わした約束を信じ10年を生きた切ない純愛を描いた映画『冷静と情熱のあいだ』の舞台となったドゥオモからの景色に感激!



▲みんなでTボーンステーキをいただき、「あ〜おいしかった (Buono!)」

## ディズニー「夢の国」へ



▲近森生まれの近森育ち、子ども達、こんなに大きくなりました。中島PT・OTファミリー

## 米国自治領のサイパン島へ



▲太平洋戦争末期、日本のサイパン島守備隊と米軍の戦闘が繰り広げられた島の最北端の岬「マツビ岬」。逃避行の果てに辿り着き、投降を禁じられていた日本人は80mの断崖から身を投げた。それで「バンザイクリフ」の別名がある。この真っ青な海が血で染まったという悲しい記憶の残る岬。私たちはこの地を訪れ不戦の誓いを新たに…



## サブローと、くろすけの苦勞と、その甲斐

新館6階西病棟看護師  
藤山 誠美

我が家には、サブロー・くろすけというトイプードルがいます。実は初めてもらった夏冬のボーナスがそ

れぞれの犬に消えたのでした…。

2匹を初めて連れ、遠出したヤ・シイパークでの一枚です。喜び興奮したくろすけに蹴られ、車酔いしたサブローのよだれを服につけつつやっとの思いで到着



しました。  
苦勞の甲斐あり2匹とも大喜びで走り回っていました。それをみて仕事の疲れも吹っ飛ばすくらい癒された一日でした。

## 看護部 キラリと光る看護

### プライドと 負けん気の強さでガンバル

その29



昨年11月下旬頃から増加してきた感染性胃腸炎の原因の一つにノロウイルスが特定され、死者の発生と下痢・嘔吐の患者さん続出の報道で多くの病院や老人施設が対応に大変だった出来事もやっと下火になってきました。

今年に入って、宮崎県では高病原性鳥インフルエンザが確認され、8,100羽の鶏の処分や周辺関連施設の消毒のため150人の職員が防護服をつけて動員され、経営の打撃と鶏の哀れに胸を痛めました。

病院は疾病の特性と免疫力の落ちた方々の集まりで、「感染の持込み・発生・伝播」という見えない危険の渦中で運営がなされています。

今回は活躍する感染管理チームのICN（感染管理看護師）について「キラリ」をお伝えします。

近森幹子さんは循環器病棟の師長を、矢野晶子さんは脳神経外科リーダーナースとして、それぞれしっかり日々の看護や管理をする

かたわら、各部署の感染報告や相談に対応しながら、感染情報の集約、分析、週間ニュースの発行作業などを援助しています。

聞いたことも見たことも無い細菌や耐性菌の影響について勉強し、合宿の演習で力をつけて予防策や指導方法を探究する学びの虜になっているようです。

看護師は医師・薬剤師・検査室の担当者と連携して患者さんの安全を守るパイプ役にならなければと高い志を見せてくれます。

看護を続けている理由はやはり、腹のたつことも、たてさせることもあるけれど「患者さんと接したい」という人との温かい関わりに関心されているからだそうです。「プライドがあり負けん気の強さで持ちこたえている」というところに彼女たちの粘り強いプロ魂を見た想いがしました。

後に続く後輩リンクナースのデビューも期待してくれていますよ。

## 薬用酒アラカルト⑩またたび酒



今回は猫ちゃんも陶酔!?猫の万病の薬といわれるマタタビをお酒にしました。

材料は理事長のウォーキングコース、日曜市で購入したものをいただきました。お酒に使用したマタタビは「虫えい果」と呼ばれる「かぼちゃ」型のもので、マタタビの果実には「どんぐり」型と「かぼちゃ」型があります。「どんぐり」型が正常な果実で、「かぼちゃ」型はつぼみの頃にマタタビノアブラムシという小さな昆虫が寄生し、果実が正常に成長せずデコボコしたコブ状になったもので、こちらの方が有効成分を多く含むといわれています。

<材料> (密閉容器1L分)

またたび (生虫えい果) …… 250g  
氷砂糖 …… 250g  
ホワイトリカー …… 約700ml

<作り方>① またたびはきれいに汚れ、水気を取る。② そのまま容器に入れ、氷砂糖を加え、漬け込む。③ 3ヶ月以上置くとまろやかなお酒になる。

※マタタビ酒には、疲労回復、冷え性、神経痛、腰痛、不眠症などに効果があるといわれています。

漬け込んでから約3ヵ月後、どんな味がするのか興味津々で臨んだ試飲会、ひろっぱ編集委員には意外にも大好評!「複雑だけど上品でクセがない」、「森林浴を思わせるような豊かな味わい」、「ソーダで割って、食前に飲んではどうか」などの意見をいただきました。

※ところで、「猫にマタタビ」といわれるように、マタタビを与えると、なぜ猫が喜ぶのか?誰もが持つ疑問です。マタタビには揮発性のマタタビ酸が含まれていて、その匂いを嗅ぐと猫はとてもしらックスした状態になり、転げ回ったり、じゃれあったり、気持ちよさそうにします。人間で例えると、お酒を飲んだときのほろ酔いに近い状態です。お酒と同じように、効き目は猫によって差があります。猫科の動物のトラやライオン、ヒョウなども同じような反応を示すようです。

※ちなみにこのマタタビ酒を実際に猫に与えるとどうなるか、興味深いところです。猫を飼っている方々に試してもらったところ、匂いを嗅ぎつけたのか、テーブルの上に飛び乗ってきたという反応もあれば、ほとんど興味を示さなかったという反応もあり、やはり猫それぞれのようです。特に女性に効果があると言われる「マタタビ酒」、猫のように癒されてみませんか? (文と画 薬局 嶋崎 ユリカ)

## ● 2月の歳時記 ●

### スノードロップ「待雪草」



文 援護寮まち 前口 由紀

画 千光士 可苗

スノードロップは、別名『待雪草(まつゆきそう)』とも呼ばれ、ヨーロッパを原産地とするヒガンバナ科の多年草で、とても変わった形の花を咲かせます。

春先のまだ雪が残るころ、茎先に純白の花が滴るように下向きに咲き、それはまるで、雪のしずくのように見えます。その可憐な姿から『アダムとイブのふたりが、楽園を追い出されて困っていたとき、降ってきた雪を天使がこのスノードロップの花に変えた』という美しい伝説があるほどです。

## 職員旅行

2006

Vol.4の2



▲バナナボートから振り落とされてアップアップ…、でもみんなほんとに楽しそう!



▲さあ、これからみんなで潜るぞ〜!

# やってみたいと思わせる技術

2006年12月21・22日の両日、平成18年度の全国老健研修会の本年度第3回目に当たる中堅職員研修会が開催され、「いごっばち」からは介護福祉士のふたりが参加した。

介護老人保健施設いごっばち

介護福祉士 楠瀬 <sup>まさのり</sup> 正倫  
杉村 <sup>たかひで</sup> 尚英



▲左に楠瀬正倫さん、右が杉村尚英さん

全国各地より老人保健施設、グループホームなどの中堅職員を対象とした研修カリキュラムに参加させていただき充実した2日間になりました。

まず初日は、「介護保険制度と老人保健施設」、「選ばれる施設を目指して」など内容の濃い講義が行われた。

選ばれる施設になるために日々努力して業務にあたっているが、自分達の家族や自分自身が利用したい!!と思う施設に変えていかなければならないと思った。

「あなたがして欲しいと思うことをあなたが（他人に）してあげなさい」という言葉を聞きもっとも大切なことだと実感しました。

また職場のメンバーにこれまで「やる気」を持って仕事に取り組みせようと、日常的な業務を抜き取り行うために「やらせる技術」で指導してきたが、新たな手法として「やってみたいと思わせる技術」を学ぶことができた。

パネルディスカッションでは、介護保険改正で求められる老健のケア・リハ・マネジメントについて討議され、他施設のチームケアの状況や口腔ケアを取り入れたケアプラン、リハビリテーションマネジメントなど幅広い範囲を吸収することができた内容だった。

2日目は、それぞれのテーマ①栄養 ②リハ③在宅支援④認知症に分かれてグループワークが行われた。参加した認知症のグループ討議では、現状の問題点・問題に対する対策に多くの時間を費やし時間ぎりぎりまで議論が行われた。

他の施設でも同じ悩みや問題があり、どう解決していくのか、対策はどのようにしていったら良いのかなどたくさ

んの話の聞くことができ、充実した時間を過ごし2日間の研修はあっという間に終わりました。

この研修会を通じて多くのことを学び、患者さんへの適切なケアの提供、そして良いチームケアを目指していくことが自分達、中堅職員に求められているのだと感じさせられました。今回のことを今後のいごっばちでの業務に

役立て、選ばれる施設に向かって努力をしていきたいと思えます。



## 手料理は手抜き!?

### リレーエッセイ

訪問リハビリテーションちかもり  
作業療法士 鈴江直子

これまで実家でぬくぬくと育ててきた私ですが、最近、時間があるときには少しずつ料理をしています。まだまだ包丁さばきは未熟で、患者さんとの調理訓練の時などは、あまりの不慣れさに（笑）、よく患者さんから包丁の使い方を教えていただきました。

そんな私に、画期的な調理器具がみつかりました!

みじん切り器、野菜の水切り、泡立て器がひとつになった調理器具です!しかも1500円ぐらいだったので、即、お買いあげ~!でした。

なかなか想像することが難しいと思いますが、容器の中に刃（ヘリコプターの羽根みたいなやつ）をセットしてフタをしてハンドルをぐるぐるまわしたら、タマネギやにんじんが1分ぐらいで出来るのです。また、水切りの場合は、刃をザルに替えて、ハンドルをぐるぐるまわしたら、レタスやキャベツの水切りが楽に出来ます。まだ、未使用ですが、泡立て様の羽根をセットしたら手作りマヨ



この器具を買いたい方は私までどうぞ! 詳細教えます♥

ネーズやメレンゲが簡単に作れるようです。

この画期的なみじん切り器を使って私が作った料理をご紹介します。まずは、にんじんとピーマン、タマネギ、パプリカを容器の中に詰めて、ハンドルをぐるぐる回して野菜を全部みじん切りにしたら、挽肉と一緒に炒めて、トマトジュースとカレー粉を入れて、さらに炒めたらドライカレーが出来ます。ほんの15分ほどあれば出来上がります。

まだまだ、包丁さばきが上達するのは先のようなです。

# 41年10ヵ月 喜びも悲しみも 近森会とともに

まるで、看護婦になるためにこの世に生を受けたような宇田総看護師長にも2007年1月18日、満65歳、定年退職の日がとうとう巡ってきた。

太平洋戦争の真っ只中の昭和17年、十人兄弟の五番目として高知市内で生まれ、戦争の激化とともに母上のご実家のある梶原町に疎開。「ピンボーだったけど、明るくて楽しくって家族がみんないつも笑っているような家庭」でスクスクと成長した。

宇田さんの存在自体、あるいは発する雰囲気だけで周りを癒しホッとさせる術は、こうした家庭環境や田舎独特の温かさ、共同体のような地域の連帯感などの相乗作用で生まれたものだろう。総看護師長として、管理面に仕事の比重が移ってからも、患者さんやご家族にとっても近い現場の病棟師長のような役割をずっと手放さなかった。天職が看護師というのはきつとこういことなんだろう。

41年10ヵ月の歳月を振り返れば、若い頃、脳神経外科の勤務が長くて夜中の緊急手術でしばしば呼び出されたり、外来担当でも手術室に助手として入ったり…。それから少しずつ体制が整い、各部署に分かれエキスパートが育ってきた過程を、ずっと、ずうっ～とナマで体験してきた。

昭和61年10月に基準看護体制がスタートしたこと、平成元年6月、本院が基準看護特2類、特3類の承

認を受けたこと、平成4年7月に待望の近森病院新館が完成したことなど、挙げればキリはないが近森会の大きな歴史の流れのなかで、つねに近森会と歩みをともにしてきた。

宇田総看護師長はよく「うちの病院」という言い方をなさる。近森会生え抜きのスタッフにとったら、まさに肉体の一部のように近森会が存在し、病院の動きによって自分の呼吸の仕方が変わるほどに職場が生活の大きな位置を占めたことになる。少しオーバーに聞こえるかも知れないが、生涯の伴侶に近森会で出会い、愛娘が育ち孫たちが生まれ、やっぱり近森会とともに宇田家の歴史を刻んで今日に至っている。

急速に進む高齢社会において、地域の先生方との医療連携が今後はますます大事になってくる。宇田さんは、これからは地域医療連携室に週三日ほど勤務され、和田道子看護師長のサポート役として、幸いにも近森会とのご縁が今後とも続くことになっている。

フルタイム勤務ではなかなか果たせなかったが、旦那さんのカメラの趣味に付き合い、今後は日帰りでない撮影旅行にも出かけられる。美しいものをともに美しいと眺めることができ、山へも海へも自由に行け、県外に住む孫たちに会う回数もきつと増えるのだろう。

退職なさる皆さんが必ずおっしゃる「院長先生をはじめ皆さんのおかげで、大過なく勤めを終えることができ…」という言葉が、このたび、ことのほかしみり響くのは、単に半世紀近い歳月のせいだけではないだろう。

宇田総師長さん、長らくホントに、ホントにお世話になりました。今後とも近森会看護部をよろしく願いたします。

▼管理面に仕事の比重が移っても、現場の師長のような役割がいちばん似合う…という思いはずっとあった…



★2007年1月18日の送別会は『お誕生日だから中締め会』と題し、ほとんど看護部総動員みたいな周到な準備のもと出席者110人、やっぱり看護部のパワーは物凄かった！（撮影は山本彰呼吸器外科部長）



▶近森理事長からの感謝の言葉を聴きながら…



▲大きなロウソクが6本と小さいロウソクが5本、超豪華華誕生日ケーキを前に…

▶ご挨拶では41年10ヵ月のポイントを振り返り、皆さんへの感謝の思いを表情豊かに情感たっぷりに、にこやかに堂々と…

2007年2月14日(水)  
11時30分～16時30分まで  
近森病院新館玄関前で

**バレンタイン献血  
ご協力ください♥**

風邪薬を飲んでいたり、体調の思わしくない方は献血ができません。体調にはくれぐれもお気をつけください。

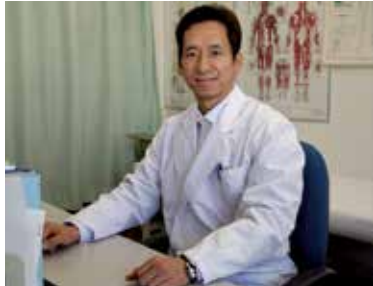
シリーズ●クリニック探訪22

うしおえ太陽クリニック

http://www.taiyou-clinic.jp/  
e-mail:info@taiyou-clinic.jp

tel. 088-805-0070 fax.805-0072

高知市竹島町 うしおえメディカルビル2階



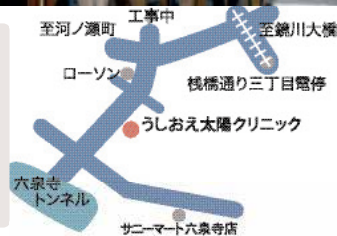
院長・野中一興(かずおき)  
昭和38年11月21日 高知市生まれ  
趣味はテニス

▲地域のかかりつけ医を目指しています。身体のこと  
で困った時には何でも相談  
して下さい。専門は整形外科  
でスポーツをするスポー  
ツドクターです。リハビリ  
も充実しています。

診療時間●  
9:00~12:30  
※水 13時まで  
14:00~18:30  
※土 13時まで  
休診 ●  
日曜、祝日



診療科目●  
整形外科、  
リハビリテ  
ーション科、  
内科、  
外科、  
人間ドック



今年の平安を願い新年の玄関花

★新館1階待合室ではこの飾り付けで、  
お正月を迎えました。ところで、リハビ  
リテーション科・和田恵美子先生の長女・  
萌々子(ももこ)ちゃんは6歳になりました。



近森リハビリテーション病院の飾り付け



図書室便り (管理棟図書室 2006年12月受入分)

- ・幻覚妄想体験の治療ガイド 正体不明  
の声 対処するための10のエッセンス/  
原田誠一
- ・介護保険・医療保険 訪問看護業務の手引  
き 平成18年度版/社会保険研究所(編集)
- ・診療点数早見表(医科)2006年4月  
診療報酬改定準拠/医学通信社(編集)  
《別冊・増刊号》
- ・別冊 医学のあゆみ 薬物性肝障害をめぐ  
って/石井裕正(編集)
- ・月刊 Medical Technology 別冊 超音波エキ  
スパート6 下肢静脈疾患と超音波検査の進  
め方 ーいかに深部静脈血栓症・下肢静脈  
瘤をエコーで診るかー/佐藤洋(他編集)
- ・老年精神医学雑誌 vol.17 増刊号ー ア  
ルツハイマー型認知症の実地診療の課  
題を考える/平井俊作(他著)
- ・透析ケア 2006年冬季増刊 ナースの日  
常の?をスッキリ解決!透析機器のギモ  
ン100アンサーブック/山家敏彦(編著)  
《ビデオ・DVD》
- ・日本人工臓器学会 人工心肺トレー  
ニング DVD vol.1 人工心肺の基本操作と  
トラブル対処法1/富澤康子(監修)

12月の診療数	近森会 外来患者数	19,415人	企画情報室より
	近森会新入院患者数	826人	
	近森会 退院患者数	910人	
	地域医療支援病院紹介率	88.54%	
	近森病院平均在院日数	14.45日	
	近森会 平均在院日数	21.94日	
	近森病院救急車搬入件数	484件	
	うち入院件数	265件	
	手術件数	340件	
	うち手術室実施	223件	
全身麻酔件数	124件		

編集室通信

▼身近で一緒に仕事をさせていただいた  
方が、ご縁があって県外に行かれること  
になりました。いろいろと助けていただ  
き、また気付かされることも多く、近森  
会で一緒に働く機会に恵まれたことに、  
いまさらながら感謝の念を強くします。  
ところで、『ひろっば』に毎号人の動きが  
掲載されていますが、ここで忙しくも楽  
しい時間を共有できる喜びを改めて感じ  
ました。今後とも大事にしたいです。(光)